連雀学園

連雀

平成３０年度　連雀学園の評価・検証　結果報告

検証項目	①　コミュニティ・スクールの運営
目標	・コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等）
取組	・学園管理職会、ＣＳ役員会等で内容を整理するとともに、開始時刻を30分繰上げ、話し合いの時間を確保する。 ・ＣＳ委員会内に「まなびのスタンダード」担当を設け、担当を中心に広報、評価、改善を図る。 ・各小学校の支援組織の成果を中学校で活かす。 ・ＣＳ委員会が主催する地域の資源や人財等を活用した様々な取組を通して、学園として新しい交流の在り方を考え、実践する。 ・「推進委員会」「学園研究」「100人の会」「スポーツ交流」など教職員同士やＣＳ委員との交流や親睦を重視する。 ・〔連雀学園ＮＥＷＳ〕の内容の充実を図る。 ・ホームページの更新回数100回をめざし、内容の充実を図る。

成果	課題と改善方策
○評価部会が「まなび」のスタンダードについてのアンケートを実施した。活用されていない実態が明らかになり、来年度に向けて見直しの方向性を確認できた。 ○必要に応じて一中の支援を各小学校の支援組織が動いて実施している。一中での漢検練習や図書室活動への小学生参加などのイベントを支援組織が中心となって開催された。 ○10周年記念集会や、実行委員会企画が開催され、学園の一体感が強まった。 ○特に「子ども熟議」では、「10年後の連雀学園について」というテーマで話し合ったことは意義深く、連雀の今後に希望を持つことができたと同時に、今後この熟議の結果を実現する必要を感じている。 ○「連雀ＮＥＷＳ」はカラー版も増刷され、充実した。	○開始時刻を30分繰り上げて会議を実施したが、なかなか協議時間が取れなかった。内容の精選を行う必要がある。 ○各小学校の支援組織とＣＳ委員会との関連を明確にしていく必要がある。 ○ＣＳ委員会と教員との交流の機会を増やす努力が必要。 ○学園ＨＰがなかなか更新されない。システム変更も影響があったが、ＨＰ担当をＣＳ委員会と連携できるとよい。

検証項目	２　小・中一貫教育校としての教育活動
目標	・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等） ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動
取組	○学園の教職員の当事者意識とＣＳ委員会や地域、家庭との協働 ・組織的な課題解決力の充実を図る。 ・メール、回覧、共有フォルダの活用を行い、必要な情報がすぐに伝達されると同時に自らも情報の発信者になる。 ・互いの職員室に自由に出入りできる雰囲気をつくる。 ・「学園研究」「100人の会」「スポーツ交流」など教職員同士やＣＳ委員との交流や親睦を重視する。

成果	課題と改善方策
・共有フォルダ、メール、回覧、掲示板などは年間を通して有効に活用されており、情報の発信者としての意識も高い。反面、紙ベースの必要性も課題となってきている。 ・回覧板の活用が図られ、学園研究では一体感をもった取組ができ、会議が効率的に行われるようになってきている。今後も有効な活用の在り方を考え、実践し、効率的な学園運営を行う。 ・「学園研究」「100人の会」「スポーツ交流」などを通して、教職員の当事者意識は高まり交流も進んだ。そのことが学園研究でも成果として表れている。	・校務ＰＣについては、まだまだ効果的な活用方法がある。次年度校務ＰＣの入れ替えがあるが、新しいＰＣやタブレットの効果的な活用方法を学園で共有していく。 ・ＣＳ委員会との交流が少ないという課題もある。学校とＣＳ委員会、地域・家庭が「協働」してできることをＣＳ委員会の際に熟議を行い、よりよい交流や連携の方法を探していく。

検証項目	３　（知）確かな学力
目標	・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・ＩＣＴ活用 ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等
取組	・知的コミュニケーションを活かした学びを手だてとし、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成を重視する。 ・「三鷹『学び』のスタンダード」をもとに作成した「連雀学園『まなび』のスタンダード」を生かし、基礎教科や理数系の教科等の学力向上に小・中一貫教育の視点で取り組む。 ・ＩＣＴを活用した学習活動に取り組む。 ・相互乗り入れ授業を有効に活用する。 ・「東京方式　ガイドライン」に則った習熟度別指導の推進を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの趣旨を踏まえた学習指導を重視する。

成果	課題と改善方策
○学力調査からは学園全体が高い水準を維持している。 ○学園研究で「知的コミュニケーションを活かした学び」を６年間取組んできたその成果と課題を公表することができた。生き生きとしたコミュニケーションをする子どもたちの姿で成果を示すことができたと自負している。学園研究に対するＣＳ委員会の評価は非常に高い。	○各校の学年、教科、領域による分析を行い、弱点や個人差に対応する必要がある。より分かりやすい授業をめざす。 ○連雀「まなび」のスタンダードについては、活用されていない実態が明確になったので、来年度改訂する。 ○研究組織の在り方の問題もあったが、各部会の研究成果を全体で共有することが難しかった。今後、共有の努力をし、「主体的・対話的で深い学び」を追究していく。

検証項目	４　（徳）　豊かな人間性
目標	・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・情報モラル教育 ・生活指導等
取組	・目的を明確にしたあいさつ運動の実践、家庭への協力を呼び掛けるなど、年３回のあいさつ運動の取組に工夫・改善を加えながら実践する。 ・中学校進学を控えた３月と中学進学後の６月に引き継ぎの会を開催し、引き継ぐべき内容を整理して情報交換を密に行い、個々への指導方針を明確にする。 ・道徳や特別活動の時間等を活用し、教員と子ども、子ども同士の人間関係を構築する。 ・「いじめ防止対策推進法」の趣旨を踏まえ、学園としての取組を明確にし、人権に配慮した教育活動を継続する。 ・自尊感情アンケートを実施し、実態を明らかにし、児童・生徒の自己肯定感・自己有用感を高める活動、指導を行う。

成果	課題と改善方策
○あいさつ運動に+αという工夫をすることで活性化している。 ○引継ぎ会はより項目を明確にした文書での情報交換を行うことで、指導方針も明確にもつことが可能となった。 ○道徳の授業改善を研究の内容としたので、道徳教育の充実が図られつつある。 ○「いじめ防止対策推進法」の趣旨を踏まえ、各校の指導方針の基、いじめ防止教育に取組、いじめの発生を未然に防ぐことで早期発見が可能となっている。	○あいさつ運動中は大変元気に意欲的にあいさつできるようになるが、日常化が課題である。 ○個別指導計画の活用を促す必要がある。 ○学園研究第３部会の成果を学園全体のものとすること。 ○「いじめ」はあっても仕方のないことと考える児童・生徒が1％だが存在する。意識を徹底させる必要がある。

検証項目	５　（体）　健康・体力
目標	・基本的生活習慣の確立 ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等
取組	年間計画に健康教育を位置付け、児童・生徒が自分の体力を知り、関心を高める授業を実施する。 ・体力の向上を目指し、運動の日常化をねらった取組を行う。 【例】「連雀クラス対抗長なわオリンピック（仮称）」各校の取組(持久走、短なわとび、体幹トレーニング等) ・地域のスポーツ大会やイベントへの参加など関係諸団体と協働した実践を行う。 ・避難訓練、安全点検などを実施し、防災意識を高め、防災計画の改善を行う。学園で共通した取組や地域・保護者と連携した継続的な取組を行う。

成果	課題と改善方策
○体力・運動能力調査の結果は伸びている。学園や各校での取組の成果が表れつつある。 ○市総合防災訓練への参加などで、地域や保護者と連携した活動を実際に行い、意識を高めることができた。	○体力の伸びは見られるが、まだまだ不十分である。体育の授業改善や運動の日常化、健康教育の学園全体での取組が必要である。 ○地域の諸団体と協働した実践は、いくつかはできているが、今後検討していきたい。

検証項目	６　特色ある教育活動
目標	・特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ・オリンピック・パラリンピック教育等
取組	・平成 30 年 11 月 17 日の記念式典、7 月 6 日の開園 10 周年記念児童会・生徒会主催連雀たてわり活動を 4 月には素案を提示し、年度当初から計画的に準備を進める。 ・現在までの取組の成果を活かし、各校で地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育を行い、学園としての指導計画の確立とその成果についての広報を行う。 ・オリンピック・パラリンピック教育のねらいに合った教育活動を積極的に展開する。 ・ＣＳ委員会が企画する「子ども熟議」をきっかけに新たな在り方を模索し、実践する。

成果	課題と改善方策
○10 周年記念集会や式典は児童会・生徒会が大いにかかわり、活躍し、立派に成し遂げた。CS委員会の評価が高かった。連雀学園の目指す児童・生徒像をお見せすることができたと考えている。 ○キャリア・アントレプレナーシップ教育については、各校の年間指導系に則って実施できている。 ○オリンピック・パラリンピック教育は各校で実践を進めている。 ○「子ども熟議」は有意義であった。CS委員会の評価も高い。10 周年に関連して 10 年後を展望したテーマであったことで、希望がもてた、児童・生徒の考えが分かった、子どもたちの意欲が素晴らしいという感想が多かった。	○10 周年記念集会、式典は学園の一体感がもてた瞬間だったが、今後はより日常的に一体感をもてる手だてを検討する必要も出された。 ○オリ・パラ教育は、今後 2020 年に向かい、積極的に実践する必要がある。 ○「子ども熟議」の結果を実現することが課題である。

検証項目	7　学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革
目標	・退校目標時間、ノー残業デー等の設定　　・教員のタイムマネジメント力の向上 ・人財の効果的活用　　・地域行事等への参加の工夫等・部活動の適正化
取組	・「マイノー残業デー」の設定　　・部活動の適正化　　・地域行事等への参加の工夫

成果	課題と改善方策
○各校「マイノー残業デー」等の設定、声掛けにより働き方を改善しようという意欲は見られた。また、定時退勤に対する認識も改められた。 ○地域行事への参加は可能な時に計画的に参加できるようにしていた。 ○「働き方改革」について、市教委よりお知らせが配布され、ＣＳ委員はもとより地域・保護者の教員の勤務について理解が進んだ。 ○留守番電話の導入などにより午後７時以降の保護者からの電話も減少した。	○教職員の働き方についての意識は向上しているが、実質の仕事量が減少していないので、仕事の優先順位や分担の方法などの工夫により、勤務時間の減少につなげられるよう、組織全体で検討することが必要である。 ○地域行事の年間の見通しをもたせ、より計画的な参加を可能にする。

平成 30 年度　連雀学園の評価・検証結果のまとめ

（1）から（7）の検証結果を踏まえて	１　「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	○「子ども熟議」 ○学園研究及び研究発表会の実施 ○学力向上 ○10 周年記念行事・イベント
	２　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	○ＣＳ委員会の持ち方を工夫する。・・・協議の機会確保と内容の充実を図る。 ○「連雀『まなび』のスタンダード」の見直し・・・研究と関連させ、基本的な生活習慣や家庭学習・運動習慣などが身に付く、活用できるものに改訂していく。 ○学園研究　新たな一歩を踏み出す。・・・連雀学園の目標「知・徳・体をバランスよく育成する」ためには、弱点である心力、体力の向上に重点を置く必要がある。 ○「子ども熟議」の結果・成果を実現化する。
	３　「２」の重点課題を解決するための改善策
	○ＣＳ委員会の報告部分を簡略化し、テーマを設けて協議時間を有効に生みだす。 ○学園研究を体育・健康教育に・・・「知・徳・体をバランスよく育成する」を目標に体育・健康教育に重点を置いた研究とする。今までの連雀学園の研究を基盤にするので、「知的コミュニケーション」や「連雀思考スキル」及び、授業改善を研究の中心にすることは継続する。さらに、「連雀『まなび』のスタンダード」の改訂も研究に位置付けて、学校とＣＳ委員会協働して行う。 ○児童会・生徒会が中心になって、実現したいイベント等から企画する。学校・ＣＳ委員会も支援する。